星めぐりの歌　　宮沢賢治

あかいめだまの　さそり

ひろげた鷲の　　つばさ

あをいめだまの　小いぬ、

ひかりのへびの　とぐろ。

オリオンは高く　うたひ

つゆとしもとを　おとす、

アンドロメダの　くもは

さかなのくちの　かたち。

大ぐまのあしを　きたに

五つのばした　　ところ。

小熊のひたいの　うへは

そらのめぐりの　めあて。

　童謡は童心性を基調として、真、善、美の上に立つてゐる芸術であります。

　童謡の本質は知識の芸術ではありません、童謡が直に児童と握手の出来るのも知識の芸術でないからであります。

　童謡が児童の生活に一致し、真、善、美の上に立つて情操陶冶の教育と一致するのも超知識的であるからであります。

　本書は大正九年に発行した第一童謡集『十五夜お月夜さん』以後の作中からセレクトした第二童謡集であります。

金の星編輯部にて　　雨情

# 明日　　新美南吉

花園みたいにまつてゐる。

祭みたいにまつてゐる。

明日がみんなをまつてゐる。

草の芽

あめ牛、てんと虫。

明日はみんなをまつてゐる。

明日はさなぎが蝶になる。

明日はつぼみが花になる。

明日は卵がひなになる。

明日はみんなをまつてゐる。

泉のやうにわいてゐる。

らんぷのやうに点つてる。